

大臣参議及各省卿大輔約定書
同 草案

一点
二点

国立公文書館

分
類

2 A

33-6

③ 324

(25)

約定

ナ

今般特命全權大使派出ノ一舉ハ洵ニ
不容易大事業ニテ全國ノ隆替
皇運ノ泰否ニ關係スル事ニ中朝ノ官
員派出ノ使員ト内外照應氣脈貫通一
致勉力セサルハ成功難奏萬一議論矛盾
シ目的差違ヲ生スル時ハ國事ヲ悞リ國
辱ヲ釀スヘキニ由リ爰ニ其要旨ノ條件ヲ

列シ其事務ヲ委任擔當ス諸官員
連名調印シ一々遵奉シテ之ニ違背
スルナキヲ證ス

第一款

御國書并遣使ノ旨趣ヲ奉シ一致
勉力シ議論矛盾目的差違ヲ生スヘカラス

第二款

中外要用ノ事件ハ其時々互ニ報告
シ一月兩次ノ書信ハ必ス缺クヘカラス

第三款

中外照應シテ事務ヲ處置スル為メ特ニ
大使事務管理ノ官員ニ命シテ之ニ從
事セシメ來歲大使歸國ノ上ハ中朝事
務ニ任スル官員ト共ニ理事官等ニ交

代シテ外國ニ派出セシムヘシ

第四款

大使使命ヲ遂ケ歸國ノ上ハ各國ニ
於テ商議及考察セシ條件ノ參
酌考定シシヲ實地ニ施行スヘシ

第五款

各理事官ノ親見習學シテ考察セシ

方法ハ酌定ノ上順次之ヲ實地ニ施行シ
習學了ラサルモノアレハ代理事官之ヲ引
請完備ナラシムヘシ

第六款

内地ノ事務ハ大使歸國ノ上大ニ改正
スル目的ナレハ其間可成丈ケ新規ノ
改正ヲ要スヘカラス萬一已ヲ得スシテ改

ハスル事アラハ派出ノ大使ニ照會ヲナス
ヘシ

第七款

廢藩置縣ノ處置ハ内地政務ノ統一ニ
歸セシムヘキ基ナニ條理ヲ逐テ順次其實
效ヲ舉ケ改正ノ地歩ヲナサシムヘシ

第八款

諸官省長官ノ缺員ナルハ別ニ任セス參
議之ヲ分任シ其規模目的ヲ變革
セス

第九款

諸官省トモ勅奏判ヲ論セス官員ヲ増
益スハカラス若シ已ヲ得スシテ増員ヲ要ス
時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

第十款

諸官省トモ現今雇ハ外國人ノ外更ニ
雇ハルヘカラス若シ已ヲ得スシテ雇ハラ要ス
ル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

第十一款

右院定日ノ會議ヲ休メ議スヘキ事アルニ
方テハ右院ヨリ其旨ヲ下シ毎會期日ヲ定

ムヘシ

第十二款

款内ノ條件之ヲ遵守シテ違背スヘカラス
此條件中若シ増損ヲ要スル時ハ中外
照會シテ之ヲ決スヘシ

明治四年辛未十一月

太政大臣三條實美美
右大臣岩倉具視具視
參議西鄉隆盛隆盛
參議木戸孝允孝允
參議大隈重信重信
參議板垣正形正形
議長後藤元燦元燦

神祇大輔福羽美靜美靜
外務卿副島種臣種臣
大藏卿大久保利通利通
大藏大輔井上馨馨
兵部大輔山縣有朋有朋
文部卿大木高任高任
工部大輔伊藤博文博文

司法大輔佐々高行
司法大輔宗戸
宮内卿徳大寺實則
開拓次官黒田清隆

約定

秘書

岩倉吉成以下歐米各國
派遣員約書

(二点)

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-6
	Ⅲ 324

今般特命全權大使派出ノ一舉ハ洵ニ
不容易大事業ニテ全國ノ隆替

皇運ノ泰否ニ關係スル事ナレハ中朝
ノ官負派出ノ使負ト内外照應氣
脉貫通一致勉力セサレハ成功難奏
万一議論矛盾シ目的差違ヲ生スル
時ハ御國事ヲ悞リ御國辱ヲ醸ス

ヘキニ由リ爰ニ其要旨ノ條件ヲ具列シ
其事務ヲ委任擔當スル諸官負連名
調印シ一々遵奉シテ之ニ違背スルナキ
ヲ證ス

第一款

御國書并遣使ノ旨趣ヲ奉シ一致勉力
シ議論矛盾目的差違ヲ生スヘカラス

第二款

中外要用ノ事件ハ其時々互ニ報告シ
一月兩次ノ書信ハ必ス缺クヘカラス

第三款

中外照應シテ事務ヲ處置スル為メ
特ニ大使事務管理ノ官負ヲ命シテ
之ニ從事セシメ來歲大使歸國ノ上ハ

中朝事務ニ任スル官員ト其ニ理事官等
ニ交代シテ外國ニ派出セシムヘシ

茅四款

大使使命ヲ遂ケ歸國ノ上ハ各國於テ
商議及考案セシ條件ヲ參酌考定シ
之ヲ實地ニ施行スヘシ

茅五款

各理事官ノ親見習學シテ考按セシ
方法ハ酌定ノ上順次之ヲ實地ニ施行
シ習學了ラサルモノアレハ代理理事官之
ヲ引請完備ナラシムヘシ

茅六款

内地ノ事務ハ大使歸國ノ上大ニ改正
スル目的ナレハ其間可成丈ケ新規ノ

改正ヲ要スヘカラス一カ一己ヲ得スシテ改
正スル事アラハ派出ノ大使ニ照會ヲナス
ヘシ

第七款

廢藩置縣ノ處置ハ内地政務ノ統一ニ
歸セシムヘキ基ナレハ條理ヲ逐テ順次其
實效ヲ舉ケ改正ノ地歩ヲナサシムヘシ

第八款

諸官省長官ノ缺員ナルハ別ニ任セス
參議之ヲ令任シ其規模目的ヲ変
革セス

第九款

諸官省トモ敕奏判ヲ論セス官員ヲ増
益スヘカラス若シ已ヲ得スシテ増員ヲ

要スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞

フヘシ

第十款

款内ノ條件之ヲ遵守シテ違背スヘカラス
此約定ニ連名スル官負故ナク変置スヘ
カラス此條件中若シ増損ヲ要スル時ハ
中外照會シテ之ヲ決スヘシ

明治四年辛未十月

第十款

右院定日ノ會議ヲ休メ議スヘキ事アルニ方リテハ正院ヨリ其旨
ヲ下シ毎會期日ヲ定ムヘシ

第十款

諸官省トモ現今雇入ノ外國人ノ外更ニ雇入ルヘカラス若シ已ヲ
得スミテ雇入ヲ要スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

太政大臣三條實美

右大臣岩倉具視

參議西鄉從盛

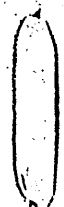
參議木戸孝允

參議大隈重信

參議板垣退三

形

約定



④ 324

今般特命全權大使派出ノ一舉ハ洵ニ
不容易大事業ニテ全國ノ隆替

皇運ノ泰否ニ關係スル事ナレハ中朝
ノ官貢派出ノ使貢ト内外照應氣
脉貫通一致勉力セサレハ成功難奏
萬一議論矛盾シ目的差違ヲ生スル
時ハ御國事ヲ悞リ御國辱ヲ醸ス

ヘキニ由リ爰ニ其要旨ノ條件ヲ具列シ
其事務ヲ委任擔當スル諸官員連名
調印シ一々遵奉シテ之ニ違背スルナキ
ヲ證ス

第一款

御國書并遣使ノ旨趣ヲ奉シ一致勉
力シ議論矛盾目的差違ヲ生スヘカラス

第二款

中外要用ノ事件ハ其時々互ニ報告シ
一月兩次ノ書信ハ必ス缺クヘカラス

第三款

中外照應シテ事務ヲ處置スル為メ
特ニ大使事務管理ノ官員ヲ命シテ
之ニ從事セシメ來歲大使歸國ノ上ハ

中朝事務ニ任スル官員ト共ニ理事官等
ニ交代シテ外國ニ派出セシムヘシ

第四款

大使使命ヲ遂ケ歸國ノ上ハ各國ニ於テ
商議及考察セシ條件ヲ參酌考定シ
之ヲ實地ニ施行スヘシ

第五款

各理事官ノ親見習學シテ考察セシ
方法ハ酌定ノ上順次之ヲ實地ニ施行
シ習學了ラサレモノアルハ代理理事官之
ヲ引請完備ナラシムヘシ

第六款

内地ノ事務ハ大使歸國ノ上大ニ改正
スル目的ナレハ其間可成丈ケ新規ノ

改正ヲ要スヘカラス萬一已ヲ得スシテ改
正スル事アラハ派出ノ大使ニ照會ヲナス
ヘシ

第七款

廢藩置縣ノ處置ハ内地政務ノ統一ニ
歸セシムヘキ基ナレハ條理ヲ逐テ順次其
實效ヲ擧テ改正ノ地歩ヲナサシムヘシ

第八款

諸官省長官ノ缺負ナルハ別ニ任セス
參議之ヲ分任シ其規模目的ヲ變
革セス

第九款

諸官省トモ勅奏判ヲ論セス官負ヲ增
益スヘカラス若シ已ヲ得スシテ増負ヲ

要スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

第十款

諸官省トモ現今雇ハ外國人ノ外更ニ雇ハルヘカラス若シ己ヲ得スシテ雇ハラ要スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

第十一款

右院定日ノ會議ヲ休メ議スヘキ事アルニ方テハ正院ヨリ其旨ヲ下シ每會期日ヲ定ムヘシ

第十二款

款内ノ條件之ヲ遵守シテ違背スヘカラス此約定ニ連名ス官負故ナク變置スヘカラス此條件中若シ増損ヲ要スル時ハ中外

照會シテ之ヲ決スヘシ

明治四年辛未十月

太政大臣三條實美
右大臣岩倉具視
參議西鄉隆盛
參議木戸孝允
參議大隈重信
參議板垣正形
議長後藤元燁

神祇大輔 福羽美靜
外務卿 副島種臣
大藏卿 大久保利通